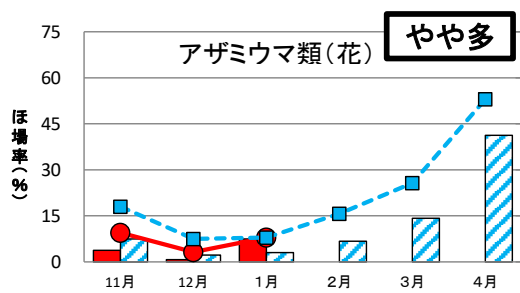
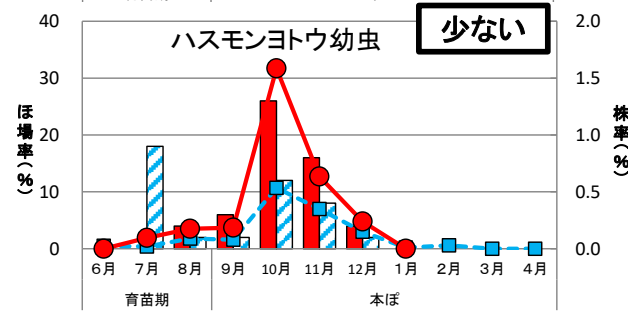
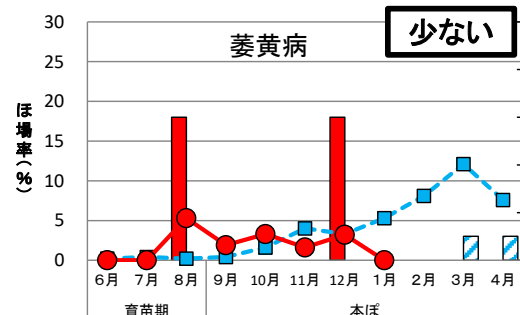
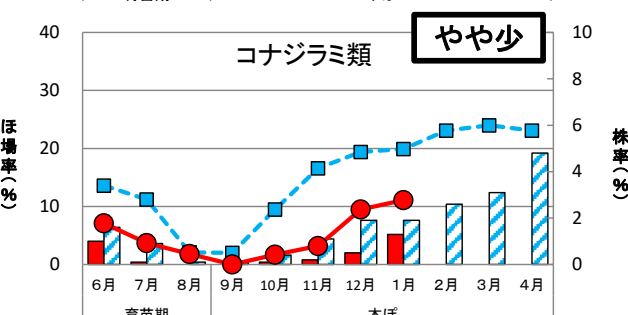
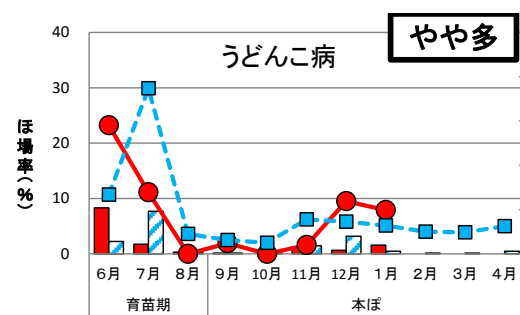
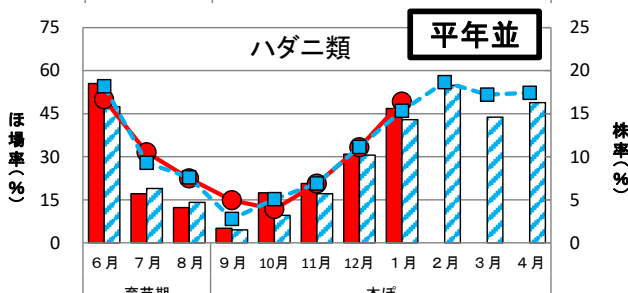
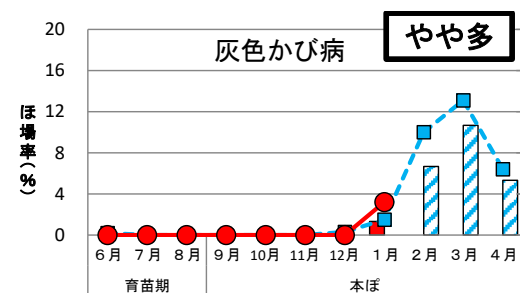
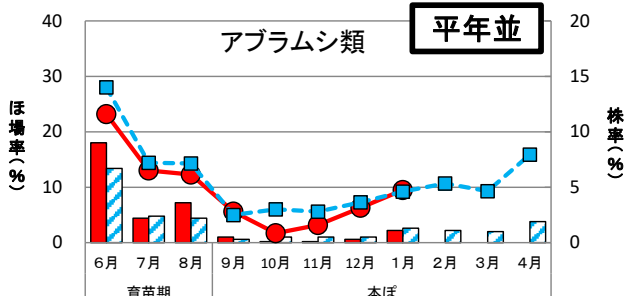
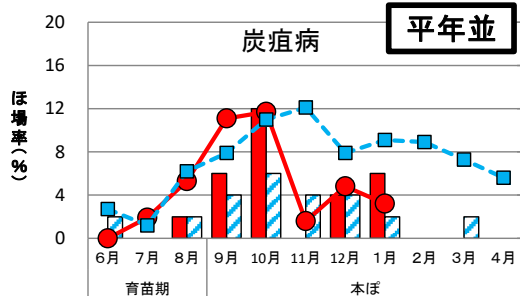


いちご病害虫情報第8号（1月）

令和8（2026）年1月23日
栃木県農業総合研究センター
環境技術指導部

■ 病害虫の発生状況 【総調査ほ場数 63 か所】



■ 本年 株率 ■ 平年 株率
● 本年 ほ場率 ■ 平年 ほ場率

※ほ場あたり25株調査

※株率(%)：発生株数／調査ほ場数×25株

※ほ場率(%)：発生が確認されたほ場数／調査ほ場数

■ 今月の防除ポイント

ー アザミウマ類の防除対策 ー

秋に発生が認められたハウスでは、2月頃からの被害増加に注意しましょう。

- 1 ハウス内で越冬したアザミウマ類は、1～2月頃から増殖しはじめる。春先の被害を抑えるため、秋に発生が認められたハウスでは、マッチ乳剤 (RACコードI: 15) 等で適切に防除する。
- 2 3月以降は短期間で急増するため、こまめに花や果実を観察する。

■ 今月のトピックス アブラムシ類

被害症状について

アブラムシ類に寄生されると葉が萎縮し、草勢が低下します。アブラムシ類が増えると排せつ物によりがくや果実が汚れ、商品価値が大きく下がります。県内のイチゴに寄生するアブラムシの主体はワタアブラムシです。本虫は、がく（写真1）、果実、ランナー先端部未展開葉の隙間等あらゆる部位に寄生します。発生が多くなると、被害株上やその周辺のマルチにアブラムシ類の分泌する甘露や白い脱皮殻（写真2）が見られます。

防除対策について

- 花房や株元、マルチをよく観察し、早期発見に努める。
- マルチに甘露や脱皮殻が見られたらアブラムシ類が発生していると判断する。脱皮殻は葉裏にも見られる。
- 薬剤散布は、かけムラのないように行う。特に気門封鎖剤は、アブラムシ類に直接かからないと効果が無いので注意する。薬剤によっては効果の発現に時間がかかるので注意する。[薬剤感受性検定結果](#)を当センターホームページに掲載中。
- RACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- アブラバチ等のアブラムシ類の天敵を利用するときは、アブラムシ類の発生状況を見ながら適時に放飼し、天敵に影響の少ない農薬を散布する。また、バンカー植物を適切に設置することは、防除効果を安定させる方法として有効である。
- 施設は開口部を防虫ネットで覆い侵入を防ぐ。
- 施設内外の雑草は増殖源となるので除草する。



写真1 がくの下側に寄生するワタアブラムシ 写真2 葉・花梗上のアブラムシ類脱皮殻（白色）

詳細は、農業総合研究センター環境技術指導部防除課（Tel028-665-1244）までお問合せ下さい。病虫害情報発表のお知らせは「[農業総合研究センターホームページ](#)」、「[栃木県農政部 X](#)」でご覧いただけます。

